

私にできることは

瀬戸内市・牛窓中3年 有高 佑麻

ニュースに流れる映像は、苦しくなるものばかりだった。今年、ミャンマーでは国軍によるクーデターが国の混乱を招いていた。私はそのニュースを見て、けがをした小さい子や荒れた町の様子に不安を感じていた。

そこでこの記事を見つけた。この記事ではミャンマーの技能実習生を受けい

岡山の高齢者施設

一つ、また一つ。細い指を動かす、折り鶴を仕上げていく。高齢者施設「せかんどゆーす西口」(岡山市北区)。入所者の女性たちが作っているのは、国軍によるクーデターで混乱するミャンマーの平和を願う千羽鶴だ。施設の運営会社「アイリフ」(同)は、ミャンマー出身の女性4人を介護の技能実習生として受け入れている。ノーさん(21)、ケイさん(20)、スーさん(21)、マーさん(25)＝愛称。2019年8月に来日し、同市内の2施設で働いている。死者は700人以上、4千人以上が拘束されたとの情報もある。家のドアを破られ、理由なく逮捕される。銃口は子どもにも向けられる。拘束された女性は拷問され、性暴力を受けた女性もいる。会員制交流サイト(SNS)などを通じて母国の知人らから、軍や警察による市民弾圧の状況が伝えられる。ノーさんの友人は拘束され、母親は自宅を離れ、身を隠しているとい

ミャンマーに平和を

入所者ら 千羽鶴折り実習生支援



「上」弾圧の苦難を伝える写真パネルと3本指のサインを掲げる(左から)ケイさん、ノーさん、マーさん、スーさん。ミャンマーの平和を願うお年寄りたちが折っている千羽鶴

「慣れない日本の生活や仕事は腫れていた」。4人が、日月のクーデター直後の様子を中心に弱音をもらしたことはな

入所者が、平和を願う千羽鶴を折り、支援したことが書かれている。私は今まで、ミャンマーの現状を見て胸を痛めていたが、それと同時に「今の私にできることはないのだろうか。」という考えが浮かんでいた。しかし、この記事を見て、支援することが私にもでき

るのではないかと気づき、ハッとした。私はミャンマーのクーデターを直接解決に導くことはできない。それでも、今の状況をよく知り、身近にできることを探すことだと思

友人が拘束されたという情報を受けた人や、逆に家族と連絡がとれなくなった人がいる。コロナ禍で思うように母国と関われないまま、自分の大切な人が危険にさらされていると知った時の不安は想像することもできない大きなものだと思う。それでも、仕事を明るくまっとうした彼女達。普

さんデジに動画

絡が取れなかった。不安を抱えていても仕事は一切、そのそぶりを見せない。普段通り、朗らかな笑顔で年寄りに接している。そんな姿に入所者に呼び掛けられた折り鶴には形が整っていないものもある。認知症の人が震える手で作ったからだ。母国との通信費などにと、10万円を贈った女性(89)は「一生懸命、日本語を勉強して頑張っているこの子たちの力になりたい。私は戦争を経験した。だからこそ争いのない世界を願っている」と訴える。職員は募金活動も始めた。4人の知り合いで、弾圧の被害者を支援している現地の僧侶に届ける。

「家族のような支えをありがと」と感謝する4人。「コロナ禍で大変な時だけど、ミャンマーで起きていることを知ってほしい。私たちの声を聞いてほしい」と平和、自由、平等を求める3本指のサインを掲げた。(井上建吾)

2021年5月5日付 山陽新聞

通でできることではない。記事の中で入所者の方は「一生懸命日本語を勉強して頑張っているこの子たちの力になりたい。」と語っている。この方は10万円を寄附し、支援したそうだ。職員は募金活動も始め、施設全員が、ミャンマーの平和を願っている。この光景は、国際的な平和を意味する素晴らしいものだと感じた。今の私にできることは何か。募金に参加するなど、すでに働きかけている人に協力すること。また、一番は自分から情報を得ようと、平和を願っていることだ。記事の最後に書かれた「ミャンマーで起きていることを知ってほしい。私たちの声を聞いてほしい。」という言葉と、平和・自由・平等を求める三本指を掲げる技能実習生四人の写真は、私の心に深く残った。私は、私のできることをこれから探し、「関係がない」と遠ざけてしまわないよう、生きていきたい。